



発行 / 小諸市公民館
編集 / 館報編集委員会
〒384-0801 長野県小諸市甲 1275-2
TEL 0267-23-8880 / FAX 0267-25-2224

『第8回邦楽のつどいと箏・尺八鑑賞会』

1月14日(日)、5年に一度の「第8回邦楽のつどいと箏・尺八鑑賞会」を小諸市文化会館で開催しました。

箏、尺八、三味線、琵琶、鳴物、舞踊など特別出演者12名を迎え、地元の出演者(萩翠孝社中、琴古流尺八青童会、コーラスグループ有志、裏千家流、浅間吟道会、西川流社中、キッズ邦楽おこと教室、東小ワクワク大夢おことクラブ)と8演目を共演しました。また、開演前にはロビーにて表千家友和会の皆さんによる呈茶も行われ大盛況でした。



◆内容

p.18～19 第59回児童生徒新年書初め展

p.20 「ぼくとわたしの作品」(小諸東中学校)

p.21 「みんなの宝物」(高濱虚子記念館/古文書調査室)

p.22 「えんぴつリレー」

～23(御影区 土屋佳生さん/西八満区 阿部良祐さん)

「五行歌」(こもろ五行歌の会)ほか



カラー版はこちら

最近の中高生は、この3、4年間、大声で話すことも、大勢で話すことも制限された学生生活だったことでしょう。「入学式、終業式等、集まることのできなかった分、卒業式は大声で校歌斉唱したら」と息子に言う「歌ったことがないから知らないし、歌えない」とのこと。コロナの影響はまだまだ残っていました。

編集委員 小坂 敏明

♪ほたるのひかりと、別れの季節の訪れです。
私の小中学校の卒業式と言え
ばこの『蛍の光』を歌った覚え
があります。高校では『早春賦』
を歌ったような気がするのです
が、『仰げば尊し』だったかも
しれないと記憶が曖昧です。
私の世代以降でしょうか。『贈
る言葉』などの歌謡曲が定番に
なっているようです。毎年の様
に違う曲が歌われ、思い出の曲
になるでしょう。皆さんの思
い出の卒業式の歌は何ですか。
『蛍の光』や『仰げば尊し』の
様なしっとり泣ける歌も捨て難
いと思うのは私だけでしょう
か。



第59回児童生徒新年書初め展

新年への希望や決意を表現することにより、健全な精神の育成と、小諸の書芸文化の発展を目的に、本年も児童生徒新年書初め展を開催しました。今年は473点の応募があり、その作品の中から市長賞を始めとする特別賞に10点、特選に22点が選ばれました。開催日の2月2日(金)～4日(日)の3日間は、大勢の皆様にご鑑賞していただきました。

―特別賞―

※作品寸評 審査委員長 成沢臨舟先生

小諸市長賞

不言実行
藤澤 蒼空 一年

小諸東中学校 一年 藤澤 蒼空

落ち着いた伸びやかな線で行意を見せ、名前も美しく、格調の高い重厚な作品となった

小諸市議会議長賞

強い信念
美齊津 咲和 六年

東小学校 六年 美齊津 咲和

一点一画、強い線で自分の生きる目標を見事なタッチで書き上げた、品格のある作品である

小諸市教育長賞

元気な声
柏木 のどか 五年

美南が丘小学校 五年 柏木 のどか

墨量豊かで、どっしりとした雄大な筆運び、重厚で風格のある堂々の力強い作品となった

小諸市公民館長賞

新たな目標
依田 歩実 二年

小諸東中学校 二年 依田 歩実

暖かな素直な線の筆運び、作品全体の余白、名前と共に明るく美しく格調の高い作品である



小諸市文化協会会長賞

澄心静慮
三年 田中 奈緒

小諸市校長会長賞

生きる力
四年 柳沢 羽音

小諸書芸連盟会長賞

正月の朝
五年 小島 結来

小諸市青少年育成会連合会長賞

強い信念
六年 小山 紗央

小諸市社会福祉協議会長賞

生きる力
四年 土屋 陽奏

小諸商工会議所会頭賞

つよい心
三年 小林 結和

芦原中学校 三年 田中 奈緒

貫通力のある運筆、リズム感あり、安定感に満ちたスケールの大きい品格の高い作品である

野岸小学校 四年 柳沢 羽音

毛筆の起筆、終筆運筆の力強さが見事、上品で余白も上手に遣い名前も生きた作品となった

東小学校 五年 小島 結来

線は細いが伸びやかで、明るいお正月を表現できた、名前が一段と作品を美しくしている

東小学校 六年 小山 紗央

冷静沈着な運筆、緊張感が実に心地よい、名前と共に明るく美しい品格の高い作品となった

坂の上小学校 四年 土屋 陽奏

墨量豊か太筆で、4年生とは思えないスケールの大きな、紙面を圧倒する力強い作品である

水明小学校 三年 小林 結和

3年生とは思えない温和な線と端正な字形に心なごむ、初春の陽だまりの様な暖かい良い作品

― 特選 ―

野岸小学校 三年 加地 彩良

美南ガ丘小学校 三年 小村 菜月

東小学校 三年 松原 碧人

岩村田小学校 三年 徐林 瑞晞

美南ガ丘小学校 四年 大池 ひいろ

水明小学校 四年 影浦 珠

佐久平浅間小学校 四年 津布工 花南

和小学校 四年 塚田 千花

水明小学校 五年 神谷 哲平

水明小学校 五年 清水 菜月

美南ガ丘小学校 五年 大塚 伶南

美南ガ丘小学校 五年 水城 陽菜

美南ガ丘小学校 五年 金井 琉花

野岸小学校 六年 亀谷 萌衣

美南ガ丘小学校 六年 須藤 みなも

水明小学校 六年 柳澤 柚羽

坂の上小学校 六年 西田 祐成

小諸東中学校 一年 小林 優奈

芦原中学校 一年 宮尾 花音

小諸東中学校 二年 乗附 茉帆

芦原中学校 二年 小山 千咲

小諸東中学校 三年 小林 颯介



小 諸 東 中 学 校

「努力と絆が輝いた第 70 回白梅祭」

3年1組

おいけ はると
大池 陽翔



今年度の白梅祭は、記念すべき第 70 回でした。その白梅祭に役員として携わらせていただきました。全校アンケートから、今年のテーマは「Sparkle ～輝け！努力と絆の結晶～」に決まり、準備を進めました。

当日は、開祭式から始まりました。役員で協力して、オープニングを創り上げることができました。意見発表会では、学年代表者が、堂々と意見を発表しました。演劇部、吹奏楽部の発表は、日頃の練習の成果を発揮し、全校が盛り上がるような発表となりました。1日目午後には体育祭が行われました。障害物競走、大縄跳び、総力リレーの3種目を行いました。各クラス練習の成果を出し、他学年からの応援も飛び交う白熱した体育祭でした。2日目は音楽祭が行われました。クラス、学年合唱は、どのクラス、学年も全員の息が合った素晴らしい合唱でした。そして、全校合唱では、全校の心が一つとなり、会場中に素晴らしい歌声が響き渡りました。

第 70 回白梅祭は、全校1人1人の努力や仲間との絆が輝いた素晴らしい2日間になりました。



「みんなで作り上げたステージバック」

3年5組

たかはし ひなた
高橋 暖



小諸東中学校の白梅祭を彩るのが、ステージバックです。全校で、1つ1つの小さな色紙を貼り、1枚の絵にするモザイクアートです。僕は今年、このステージバックを中心になって進めていく立場になり、最初は不安がありました。

まず、原画募集をしました。各クラスから出してもらった原画の中から、全校アンケートで決定しました。夏休み中に、代議員が集まり、色紙を切りました。9月上旬に行った全校制作では、660枚の紙に、12万枚の色紙を貼りました。1枚1枚のり付けして貼る作業は大変でしたが、全校で協力して作業を行うことができました。色紙を貼った紙を繋ぎ合わせ、白梅祭の前日に、ステージに貼りました。当日、完成したステージバックをお披露目した時、制

作を進め

てくることができて良かったという、1、2年生の時とは違った達成感を味わうことができました。

最初は不安がありましたが、全校で協力して素晴らしい作品を作ることができました。後輩達にもぜひステージバック制作を続けてほしいです。



みんなの宝物

高濱虚子記念館

「こもろ日盛俳句祭」

小諸高濱虚子記念館では、展示のほかに大きな主催事業を2つ開催しています。1つ目は「こもろ日盛俳句祭」であり、2つ目は「虚子・こもろ全国俳句大会」です。今回は「こもろ日盛俳句祭」について書いてみたいと思います。

「こもろ日盛俳句祭」は、高濱虚子が、真夏の一か月間を稽古と称して、特に若い皆さんの俳句の技量向上を図る目的で、日盛句会を催していたことに由来します。

今年16回目を迎える「こもろ日盛俳句祭」ですが、コロナの5類移行を受けて、昨年4年ぶりに開催したところ、全国から大勢の俳句愛好家の皆さんが集いました。

「こもろ日盛俳句祭」の大きな特徴は、結社を超えた俳句祭であることです。これは

全国的にも大変珍しく、いつもの結社の俳人が小諸に集まり、結社を超えて指導や助言をするというものです。参加者の皆さんは、多くの結社の俳人から指導や助言を得ること、俳句作りの視野が広がり、他結社の愛好家とも交流できると大変好評です。

この俳句祭は7月下旬の3日間開催されます。午前中は高峰高原や飯綱山、懐古園や氷室など、市内各所を巡って俳句作りを行い、午後はいくつもの句会場に別れて、句会を行います。

また、句会終了後は、一堂に会して講演会やシンポジウムが行われ、俳句作りに関わる貴重な話を聞くことができます。一日の終わりの懇親会も大勢の皆さんが参加され、俳句談議に花を咲かせています。



句会の様子

初めて参加された方の感想を紹介します。

「俳句祭」は、今回が初めての参加でした。俳人の先生方、参加者の皆様に優しく親切に教えていただき、3日間安心して参加できました。ご高名な先生方との吟行や句会、深い内容の講演会やシンポジウムと、何もかも貴重な体験となりました。またぜひ来たいと思いました」

俳句に興味がある方、どうぞ一度、一日だけでも参加を試みませんか。お待ちしております。

古文書調査室

令和3年に、大塚酒造様からたくさんさんの資料をいただきました。それは、地方史の研究者であられた故大塚清人氏が遺された、歴史関係の膨大な資料です。段ボールで130箱以上、また、たくさんさんの書籍です。

大塚清人氏は、本業は酒造会社の経営ですが、その傍ら、本格的に小諸を中心とした地域の歴史研究に取り組まれた方です。旧家の古文書を整理し、目録を作成したり、古文書を解読したり、研究誌『小諸』に江戸時代の「戌の満水」に関わる論文を発表したりと、精力的に活動されました。

資料の中身は、『古文書の写し』『古文書の解読文』『研究ノート』『古文書』などです。古文書の写しは、小諸市内の旧家等に存在する貴重なものが多数あります。例えば、小諸藩の家老日記は、藩政の一端がわかる貴重なものです。

また、その古文書の解読文もたくさん残してあります。小諸の歴史を究明・研究していくうえで、そういった解読

書は、非常にありがたく、役立ちます。本調査室でも、「戌の満水」に関わる史資料、祇園祭に関わる史資料を、古文書教室の学習資料として、使わせていただいています。

たくさんさんの歴史関係の書籍もあります。『国史大系』『古事類苑』といった、高価でなかなか手に入らないもの、歴史資料集、多数の県市町村誌、それから歴史辞典類などもあります。現在、分類・整理をしているところです。

私たちは、小諸の宝物として、この大塚家の資料を大切に保管し、市民の皆さんが歴史研究に使っていただけるように、さらに整理していきたいと思っています。

複写された古文書



たくさん専門書



『御影道祖神祭り』と

御影天領太鼓

御影区 土屋 佳生
(御影天領太鼓代表)



御影道祖神祭りは、毎年1月7日に御影地区で行われる300年以上続いている伝統行事です。御影新田の道祖神祭り世話人会と連携して小学校高学年の親が親方となり、子ども達が手伝って山車を組み立て飾り付けて御影地区の中央でぶつけ合いをします。この御影道祖神祭りは平成7年2月に小諸市で唯一の県無

形民俗文化財に指定されました。

平成18年に文化庁の「ふるさと文化再興事業―地域伝統文化継承事業―から助成金を頂いて道祖神祭りの和太鼓2張りを買いしました。新旧合わせると6張りの和太鼓になったので、太鼓集団を結成して御影道祖神祭りを更に盛り上げようと考えました。同年9月、区の見学板で、太鼓の打ち手の募集をしたところ8人が応募してくれました。同様に太鼓の集団名を募集しました。世話人会で検討した結果、柏木易之さん(御影用水を開削した柏木小右衛門の11代目)が応募した「御影天領太鼓」と決まりました。

オリジナル曲の作曲を信州大学名誉教授の吉本隆行先生にお願いしました。曲は御影道祖神祭りの始まりの元である御影用



水をイメージしたものをと考えました。まず江戸時代初期の御影用水の開削の時、用水の水漏れを防ぐために真綿を埋めたという地籍・綿埋(なま)「わとうずみ」が訛(なま)って「わとうずみ」という曲を平成19年3月、以後5年ほどかけて6曲を作曲して頂きました。2曲目は水が流れて来たぞという「水の恵み」、3曲目はお田植で「早苗」、4曲目は稲が成長して笹にそよ風が吹いている様子をイメージして「笹波」、5曲目はしっかりと実った「稲穂」です。そして更に「祭囃子」も創っていた頂きました。指導者は小諸の大浅間火煙太鼓の小林隆志さんを紹介していたとき、平成19年4月から8年間ほどご指導いただき

きました。太鼓や衣装を買い揃えるのに、フジコーポレーションからの御影環境保全協議会への助成金を活用し、運営費は御影区や御影公民館からの助成金やメンバーの会費で賄っています。道祖神祭りで叩く他、新年の打ち初め、盆踊り、収穫祭などで発表できる場をいただいています。また小諸市公民館まつりや大浅間火煙太鼓の自天演でも叩いています。御影道祖神祭りの伝統文化の継承を願って始めた御影天領太鼓ですが、早くも17年の歳月を刻んで、メンバーも女性や子ども達の参加が増えて、現在23名と大所帯になってきています。皆様のご理解とご支援に深く感謝申し上げます。

こんにちは！文化センターです

今月号では児童生徒新年書初め展の特別賞・特選の皆さんを紹介していますが、この他にも園児から高校生の皆さんまで多くの作品が出品されました。どの作品も力作揃いで、小諸の書芸文化の素晴らしさを感じさせられるものでした。

各施設予約開始日

施設名	利用月	予約開始日
公民館・こもろ女性の家 (貸出備品含む)	R 6 / 5	R 6 / 3 / 1(金)
乙女湖体育館	R 6 / 9	
文化会館	R 7 / 3	



『SAKUフェスを通して
気づいたこと』
西八満区 阿部 良祐



私は、佐久市市民交流広場で不定期に開催している、SAKUフェスというイベントに実行委員として、第3回から第6回に参加させていただきました。このイベントは、さくのわ花物語が主催し、佐久地域の高校生、大学生が中心となってステージイベントの企画、運営を行なっています。私がこの活動に参加したきっかけは、野沢北高校で軽音楽班に所属していたのですが、コロナ禍で校外で演奏する機会がなく、当時苦しい思いをしていたからです。そこで、この活動に参加してライブをする機会を作ろうと思いました。

き、活動を実施することができました。この活動は行わなければならないことが多く大変です。それでも、当日来てくださった方の笑顔や、満足してくださった姿を見ると、今まで頑張ってきた良かったなという思いで溢れそうになります。また、イベントを通して色々な方と知り合うことができ、幅広い年齢層の方とお話をする機会などを得られました。これらの機会を得られたのは、この企画に参加しようと思ったからであり、勇気を出して参加して良かったと思います。最後になりましたが、一番学んだことは、仲間の支えがあったからこそ、大変な時を乗り越え、より良いイベントを作り上げられたことです。これを読んでいる方で何か活動したいと思っている方

もいると思います。きっと同じ思いを持っている人がいるはずです。勇気があれば叶うことの方が多いので、行動してみてください。また、宣伝になってしましますが、後輩たちがSAKUフェスを開催する予定です。私は受験生なので参加していませんが、是非遊びに行ってください。



五行歌

こもろ五行歌の会

●山頭火が訪れた5月に
佐久地域の
ファンが集まる
だーいすきという人たちの
浮き浮き顔
田沼 邦夫

●最愛の人との挙式が
コロナの為
挙げられずにいた孫娘
五月 初夏の軽井沢で
晴れの日を迎えるという
甘利 滋子

●女の仕事と
線引きされていた
家事も育児も
イクメンパパは
スイスイと
大池 佳子

●幸福度は
自分が決める
一日の終わりの
眠りに
着くまえ
荻原 葉子

●休日
エアコンと扇風機の
フル活動だ
ババは自室で
うちわと戯れる
井出 正子

●ニーニをまねて
イチチョマエの口をきく
何でもやりたがり
ワックン4才
伸びしろ無限大
柏木ひろみ